

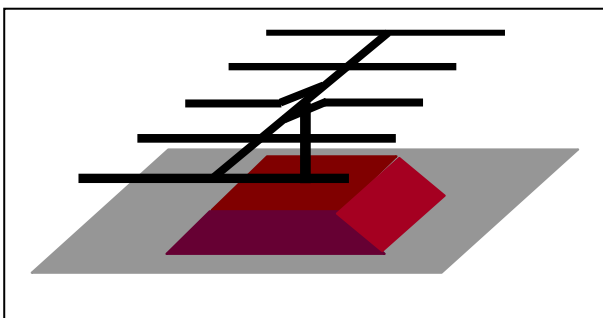
欧州系ブドウ「マリオ」の巨大粒種なし栽培



農業総合センター園芸研究所

根域制限・短梢せん定栽培している欧州系ブドウ「マリオ」に対して、開花前に新梢の摘心を行い、満開期と満開 10 日後の 2 回、ジベレリン 25ppm を花(果)房浸漬することにより種なしにでき、果粒肥大が促進されて 1 粒重を「巨峰」の約 2 倍にすることができる。

根域制限・短梢せん定栽培

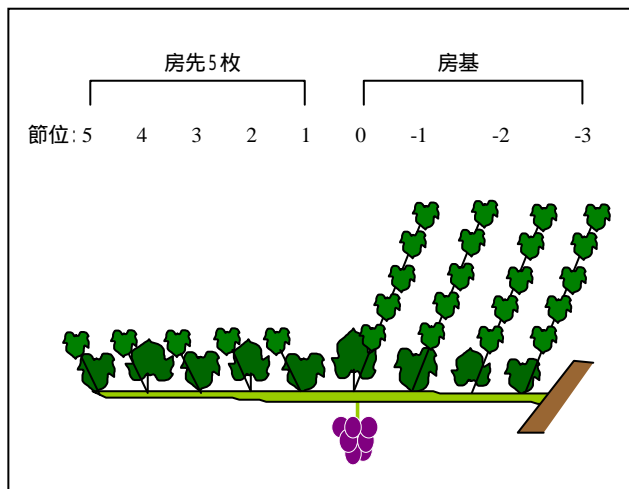


完熟堆肥の他、砂などを混ぜた水はけの良い用土で盛り土をして根域制限をすると、表層の細根量が増え、養水分管理がしやすくなって果粒肥大がより促される。

「マリオ」は裂果しやすいため、収穫まで土壌水分が変化しないよう水を切らさないことが大切である。

また、技術習得の容易な短梢せん定を導入することで、作業性が向上する。

新梢に対する摘心方法



開花前に房先 5 枚の位置で新梢先端を摘むように摘心し、副梢は、房先の節は 1 枚で、着房位置から基の節は 5 枚で摘心する。摘心後発生する新梢は、芽がふくらんできた時点で早めにかき取る。

欧州系ブドウ「マリオ」の果房管理

1 新梢 1 花穂にし、房作りは、穂軸が伸びきって上段の支梗の花が 1 ~ 2 輪咲き始めた頃から行う。房の先端約 4 cm を残して、先端は摘まず、他の支梗は全て切除する。

満開期と満開 10 日後の 2 回、ジベレリン 25ppm を花(果)房浸漬することによって種なしにすることができ、果粒肥大を促進することができる。また、1 回目のジベレリン処理時にホルクロルフェニユロン 5ppm を加用することでジベレリン処理時期の適期幅が広がり、果粒がより肥大して、1 粒重を「巨峰」(有核)の約 2 倍にすることができる。

摘粒は、房の内部にある果粒、下向きの果粒等を切除し、上段は 4 ~ 5 粒、中央部は 2 ~ 3 粒、下段は 1 ~ 2 粒を目安に、全体で 50 粒程度残すように行くと、房重が約 1 kg のボリューム感あふれる房ができる。

